

言 頭 卷

◎新「会報」の発刊に当って

従来「ラプラタニュース」の名の下に、久しきに亙って刊行を続けられてきた協会機関紙も、時代の変遷と共に、取材の視点を新たに必要性が痛感されるに至った。今回その呼称も単に「会報」と改め、ア国の近状を肌で知る新鋭諸賢を煩わして、編集委員会が設けられた。その情熱を楳として取り敢えず新発足したが、今後ご叱正を得て逐次内容の充実を図りたい。

本号の発刊に際して、種々ご助力を戴いた外務省、在ア商工会議所、その他関係各方面の当路の方々に深く謝意を表し上げます。

更に、法人、個人を問わず会員各位におかれても、随時ご投稿乃至ご助言を戴ければ幸甚です。

尚、編集の視点を定めるに際して、ア国と日本を結ぶこれまでの歴史を顧みたところ次の如き諸点が浮かび上がって来ました。

・日ア関係史を振り返って

(I) 1960年代に至る昭和の前半期に於ては、ア国は、わが国にとっては移住者を歓迎する豊かな資源国として存在した。同時期に於ける時代の象徴は、移住船「あるぜんちな丸」の就航であり、ニュースの眼も、移住環境乃至そこへの企業進出のあとの追跡に主眼が置かれていた。

(II) 1970年代～'80年代に至り、日本経済の高度成長の反面、ア国経済の停滞が極まり、所謂「失われた'80年代」となる。結果として債権国の日本と債務国の立場に追い込まれたア国。労働力の不足を生じた日本に対し、新しい雇用の場を日本国内に求めるア国側民生の動きが顕在化した

(III) 冷戦終結後の現状

世界経済ブロック化の趨勢の中であって、メネム大統領の新政権は、市場経済活性化を目指し、大胆な施策に踏みきった。その関連に於て、日本から派遣された大来ミッションは、ア国経済の分析を通じ有用な献策を行い、ア国側の高い評価を勝ち得たものと了解される。それはかつての「あるぜんちな丸」が当時の掛け橋となったように21世紀へ向けて、アルゼンチンと日本の間を結ぶ「新たな掛け橋」の役を担うものと期待される。

(編集子)



日ア両国に於ける経済交流

本創刊号より日亜間の経済交流を主体とした現地情勢をお知らせすることと致します。その情報源の一つとして在亜日本商工会議所の快諾を得て同会議所が毎月定期的に発行している「会議所だより」も借用することとなりました。

(因みに在亜日本商工会議所は、創立44周年の歴史を有し、現在法人会員46社、正会員(法人所属者を含む)127名を擁します。本会議所は法人会員の代表者17名により構成される理事会により運営され、現会頭は白鹿敦巳(亜国三井物産社長)であります。)

さて、今月のトピックスとして下記をお知らせします。

◎大統領訪日

カルロス・サウル・メネム大統領は、本年12月1日から3日迄日本(東京)を公式訪問が内定し、両国間で準備中と了解されます。今回の訪日を実現すれば1985年11月(大統領就任前のラ・リオハ州知事時代)、1990年11月(大統領就任後2年目)に続き3回目となります。

メネム政権は発足後4年目を迎えますがインフレの終息、債務の軽減、民営化実施等著しい経済の回復を果たし、亜国は中南米諸国の中ではメキシコ、チリと並ぶ経済自由化の旗手的存在であります。

外交政策上も従来の欧米一辺倒を脱し米国、ブラジルに加え日本との経済交流拡大を強く望んでおり、カバーロ経済大臣、ディテラ外務大臣を始めとし政府高官、財界首脳、約30名が同行する予定とのこと。

大統領訪日に際しては日本の官民首脳との間で種々打ち合わせが予定されておりますが、日本政府からの資金協力や二国間協定の締結等の成果が期待されています。

当協会も大統領一行歓迎の催しに際しては応分の役割を果たしたいと考えています。

◎日ア経済合同委員会

日亜経済合同委員会は両国の主要経済団体が中心となり1966年3月に発足現在日本側委員会は日本、東京商工会議所内に設置されています。因みに本年4月、亜国プエノス・アイレス市に於いて第15回合同会議が開催され貿易、運輸、投資、技術協力等の幅広いテーマにつき活発なる討議が為されましたが、今回大統領、経済大臣らの訪日に際しては諸橋晋六委員長を始めとする日本側委員会幹部(日本、東京商工会議所首脳)と亜側要人との間で面談の機会が設けられる予定です。

◎ オオキタ財団の現況

本財団は1991年亜国農牧協会アルチュロン総裁を中心とした亜国各界の協力により亜国法人として設立され会長にアルチュロン氏、名誉会長に故大来佐武郎氏（当時内外政策研究会会長、元外務大臣）が就任されました。本財団の目的は1987年に提出された「大来レポート」は1985年より2年半にわたり日本政府技術協力の一環として実施された亜国経済開発調査レポートでメネム政権でも亜国経済復興の基本指針として活用された）のフォローアップ活動より発展した経済問題を中心とした日亜間の情報交換、相互理解の増進にあります。

本年2月大来佐武郎氏ご逝去後も大来寿子夫人に名誉会長をお願いし下記メンバーより成るオオキタ財団日本委員会を設立し、財団法人国際開発センター内にオオキタ財団日本支部を開設、大来氏の遺志をついで本財団活動を盛り立てて行くこととなっております。

オオキタ財団日本委員会メンバー

代 表	河合三良	国際開発センター会長
委 員	大河原良雄	経団連特別顧問、外務省顧問
	内海 孚	大蔵省顧問
	香西 泰	日本経済研究センター理事長
	宮崎 勇	大和総研理事長
	行天豊雄	東京銀行会長
	石川六郎	鹿島建設会長

今回大統領に同行訪日するカバーロ経済大臣が本財団亜国委員会の委員長を引き受けられたことにより訪日時にアルチュロン会長の参加も得て両国委員会やセミナーが開催される予定です。又、大統領訪日を機に日本政府（JICA）技術協力の一環として大来レポートの第二次調査（今回は亜国経済政策上の急務となりうる亜国産品の対日、アジア向け輸出促進に的を絞る）実施につき合意される見込みであります。

◎ JETRO（日本貿易振興会）の活動

JETROは本年度のプラン事業（Project for the promotion of Latin American Export & Industry = 中南米 貿易産業振興特別支援事業）の対象をブラジルとアルゼンチンに定めアルゼンチンではPROJECT名をTANGO（Trade promotion from Argentina to Nippon for argentin's Goods = 亜国産品対日輸出振興）と名付け下記プロセスによる系統だった支援を実行中です。

第一プロセス：現地輸出促進諮問委員会並びにJETRO 専門家による特定産業選定

第二プロセス：選定された特定産業の育成（専門家派遣、市場調査、研修員受け入れ、セ

ミナー開催等)

第三プロセス：製品紹介、普及、商談支援（カタログ、VTR作成、輸出促進ミッション受け入れ、見本市参加支援等）

現在、第二プロセスにて、ボトルワイン、濃縮ジュース（りんご、ぶどう、レモン）、果実缶詰め（もも、なし、フルーツカクテル）の3品目を選定し9月初旬より2週間にわたり亜国側よりワインと果実類の研修員を受け入れました。

◎ 6月の自動車生産、史上最高を記録（JETRO通商弘報8月11日号より）

・ブエノスアイレス発

自動車工業会は、93年6月の自動車生産台数が3万台余となり、史上最高を記録したと発表した、この生産水準は、前月比9.1%増、前年同月比31.4%増で、1～6月の累計では前月同期比34.7%増となった。

自動車の生産台数は、昨年来コンスタントに拡大しつつあったが、その背景には、ハイパーインフレ時に低迷していた国内需要が、経済の回復、割賦販売の復活などにより刺激され、急速に回復していることがある。

なお、5月31日に政府と自動車メーカーとの間で締結された93年自動車生産協定に基づき、本年中にブラジルに対して1万5000台弱の自動車が輸出される。この協定は、政府が内国税の減税などメーカーに対するインセンティブを維持し、メーカーは以下の条件を達成することを合意したもの。①94年3月まで価格を維持すること、②労働者に対する5%の賃上げを実施すること、③93年の国内生産台数を34万台とすること、④年間約10億ドルの輸出を実行すること、⑤年間3億ドルの投資を実行すること。

表 1. 国内メーカー各社の生産台数	(単位：台)	
	93年6月	93年1～6月
Autolatina S.A.(フォード・フォルクスワーゲン)	6,989	36,590
Interamericana S.A.(ルノー)	8,08	40,016
Sevel S.A.(フィアット、プジョー)	14,491	60,406
その他(5社)	862	4,167
合計	30,423	141,179

表 2. 自動車生産台数推移

		(単位：台)	
88年	164,160	90年	99,644
89"	127,822	91"	138,958
		92"	261,942

(ARBF-188-163)

現地経済指標

1. 為替1ペソ=1米ドル
2. インフレ率

消費者物価指数	8月分(対前年比)	0%
	1~8月 累計	5.7%
3. 旅行者用データ
 - (1) 5スター級 シングル一泊(朝食付)
250米ドル+付加価値税(18%)
 - (2) レストラン

和食(定食)	19~29米ドル
現地食(焼肉等)	25~55米ドル
 - (3) タンゴハウス35米ドル

アルゼンチン便り

◎海上自衛隊練習艦隊の訪ア

本艦隊のブエノス・アイレス訪問は1965、72、76、80、84、89年に続き7回目にて練習艦1隻、護衛艦2隻、約760名の隊員より成り、去る8月27日ブエノス・アイレス入港、ア国海軍在留邦人、歓迎委員会、日本大使館員による盛大なる歓迎を受けた後、8月30日に出港、モンテ・ビデオ(ウルグアイ国)に向いました。

◎アルゼンチンサッカー現地情報

MUNDIAL'94の南米予選が行われています。アルゼンチンは、9月5日、コロンビアと戦いました。アルゼンチンは、負けか引き分けの場合、予選通過の権利を失うところまで追い込まれていましたが、対コロンビア戦では、全く良いところが出ず、0-5で完敗を喫しました。結果、10月半ばに、オーストラリアと出場権を賭けた試合が行われることになっています。これすらも、同日に行われた、パラグアイ-ペルー戦でパラグアイが勝っていたら失っていたという非常に際どいものでした。(THANKS TO PERUと言うべきか)

コロンビアは、VALDERRAMAというカーリーヘアを更に金髪に染めたすごい奴の冷静

な動き、球さばきと（彼は35才前後のベテランですが、ロートルになって使えなくなった後日本に行ったらアルシンド以上の人気を、得ること間違いなし。とにかく風貌と実力とが圧巻。）超俊足のフォワード陣（アルゼンチンのボックスが追いつけない！）とで、文字通り手玉に取るという試合展開をしていました。

一方、アルゼンチンの方は、選手の選び方に問題ありという監督への風当たりが非常に強くなっており、更迭のあるなしが取り沙汰されています。更に、マラドーナ参入の話がメネム大統領から出されるなど、こちらの方も、見逃せなくなっています。

別の話題としては、AEROPARQUEに到着途中のAEROLINESの飛行機が、大幅に遠回りして、RIVER PLATE球技場の上を試合中に飛んだことが問題となっています。（当然といえば当然のことですが、相変わらずこういう事の起こる国です。）

（投稿）NYK ブエノスアイレス 秋山さんより

◎タンゴの灯消えるビエッホアルマセン - 経営難で閉店へ -

「VIEJO ALMACEN」の名で日本、その他の国々のタンキチに親しまれてきたタンゴバーが経営難で店を閉めることになった。

若い世代のドライ化に加えて外来音楽のポップやロックに押されて“ムシカ シュダターナ”と呼ばれた個性的なアルゼンチンタンゴも次第に往年の人気を失い現在では亜国を訪れる観光客を対象に細々と息を繋ぐ“観光音楽”と化した今日、「ビエッホアルマセン」は本格的なタンゴの聴ける数少ない場所の一つとして日本のタンキチたちが必ず訪れるところとなっていた。

タンゴ斜陽時代にあってこの店を支えていたのは、“ムシカ シュダターナ”における“最後の吟遊詩人”とうたわれたエドモンド・リベーロの存在であった。そのリベーロも寄る年波には勝てず、この世の人ではなくなったあと「ビエッホアルマセン」を受け継いだのがリベーロの息子。父親そっくりの体軀と容貌に物言わせ、リベーロのスタイル、その儘で歌ったものの、実力は父親に及ばず、「ビエッホアルマセン」は“リベーロ”という持ち駒を失って遂に経営受難に陥り閉店を余儀なくされたという次第。栄枯盛衰は世の習いとはいえ「ビエッホアルマセン」がブエノスアイレスから姿を消したとはタンゴファンにとっては何とも淋しい話。

93-7-13ラプラタ報知

日本の中のアルゼンチン

◎アルゼンチン大使館が「卓球台」をプレゼント

「わあ、卓球台のプレゼントだ」。二学期の始業式の日、猿島郡境町立長田小（鈴木富男校長。児童421人）の子供たちから歓声が上がった。同小が長年、交流を続けている東京のアルゼンチン共和国大使館から、この夏休み中にピカピカの卓球台が一台届き、この日、子供たちに披露された。学校では、体育館に置いてクラブ活動やゆとりの時間などに使うという。

同小とアルゼンチンの縁は1935年から。同小出身で町内に住む野本作兵衛さん（97）が、知人の当時のアルゼンチン代理公使と同校を訪問したのがきっかけという。

同小によると、戦前には数回にわたり、代理公使から学用品、辞書などが贈られてきた。

戦後、交流が復活。65年には大使から卒業生に記念品のプレゼントがあり、87年夏にはアルゼンチンの少年野球団が来校して町の子と親善野球などをした。

また91年には、当時の大使館参事官の紹介でアルゼンチンの小学校と姉妹校を結び、今も作品交流を進めている。贈られてきた作品などは、空き教室を利用した国際交流記念資料室に展示し、社会勉強の教材にしている。

今回贈られてきた卓球台と一緒に、観光地の本や「日本とアルゼンチンを結ぶ友情のしるしとして贈呈します。心ばかりの品々と共に私たちの友情を込めて」との大使名のメッセージも届いた。

鈴木校長は「国際教育の大切さが叫ばれる中、子供たちに視野を広めさせ、友好を理解させるためにも大変ありがたいことです。これからも交流を深めたい」と話している。

（茨城朝日新聞より）

因みに、長田小学校とアルゼンチンとの友好関係については、当協会も都度、関係者を派遣し「日ア親善の草の根運動」に参画して来ております。

◎Jリーグでアルゼンチン選手の活躍

サッカー・ファンにとって待ちに待った日本初のプロサッカーリーグ“Jリーグ”が今年5月15日に開幕し、世界の大物スターであるブラジルのジーコ、英国のリネカー、そして独のリトバルスキーの来日参加で日本中のみならず世界からも注目される程、思いがけない盛上がりを見せています。

セカンドステージ、前半戦を終えた現在、Jリーグに登録されている外国人選手は約50人、

サッカー大国のアルゼンチンからも4人のプロ選手が来日して活躍をしています。横浜マリノスのディアスとビスコンティ、浦和レッズのトリビソンノ、そして横浜フリューゲルスのもネールの4人です。今回はそのうち横浜マリノスFCのラモン・ディアス（FW）とビスコンティ（MF）の2人を紹介することとしましょう。

チームに合流した直後の開幕戦（対川崎ヴェルディ）からゴールをゲットし、その後の試合でもハットトリックを決める等、目下、19ゴールで得点王ランキングトップのラモン・ディアスは1959年生まれの34歳。1978年に18歳でブエノス・アイレス名門のクラブチーム、RIVER PLATEの1軍にデビュー。その翌年、日本で開催されたワールド・ユース大会にアルゼンチン代表として出場して、あのディエゴ・マラドーナとの大活躍でチームを優勝へと導いた立役者です。この大会でディアス本人は8ゴールを決めて得点王に輝き、一躍日本でもお馴染みの選手となりました。

その後代表チーム入りをして1982年のワールド・カップ・スペイン大会に出場、またイタリアのプロリーグ、セリエAでプレーするなど大物プレーヤーへと成長し、1991年に母国アルゼンチンに帰国してRIVERに復帰した後もリーグの得点王を獲得する等、大物ぶりを発揮していました。現在もマリノスで年齢を感じさせない攻撃力、シュート力で期待通りにファンを喜ばせています。

一方のビスコンティは1968年生まれの25歳。1988年にROSARIO GENERALでプロデビューを果たし、同チームの中盤の要として活躍、1991年にはアルゼンチン代表チームに入り、マラドーナの後継者として「背番号10」をつけてプレーしたこともある程の実力の持ち主です。

マリノスに入団した当初はチームとの息が合わなかったこともありましたが、今は、ミッドフィールドで攻撃を組み立ててゴールをアシストし、また自らも8ゴールをあげています。ディアスが19ゴールを上げられたのもビスコンティとのコンビネーションがあったからこそ、ディアス独りではここまでの活躍は難しかったかもしれません。

横浜マリノスは優勝できる実力を持ちながら現在、4勝5敗で、10チーム中8位と低迷していますが、今後もディアス、ビスコンティコンビの活躍を応援すると共に、Jリーグ初の得点王の行方に注目していきたいものです。

◎アルゼンチン出身のおすもうさん

星安出寿（ほしあんです 十両9枚目）と星誕期（ほしたんご）の2人が活躍しています。2人とも陸奥部屋所属です。

今場所、星安出寿は5勝3敗です。

二人とも早く幕内力士になって雄姿をTVで拝見したいものです。

星安出寿 保世（十両9枚目） アルゼンチン・ブエノスアイレス出身陸奥部屋

本名 ホセ・アントニオ・ホアレス

昭和43年6月1日生、25歳

146勝-11敗 190cm-167kg

星誕期 偉真智（幕下3枚目） アルゼンチン 陸奥部屋

本名 イマチ・マロセロ・サロモン

昭和40年9月5日生、28歳

62年5月初土俵 最高位十両12枚目

◎タンゴの店めぐり（紹介）

【カンデラリア】

港区六本木3-8-6 須藤ビル1F ☎03-3405-4344

18時～翌朝1時 日・祝日休み

本格的なアルゼンチン料理が味わえる。オーナーの高野太郎さんと、本場のプレーヤーによる、アルゼンチンタンゴとフォークロレに耳を傾けながらのビノは、酔い心地満点。

チョリソ 1,600円

マトンブレ 1,400円

エンパナーダ 1,200円 他。

【ミュージック サロン エストレジータ】

丸の内線 東高円寺駅下車1分

杉並区高円寺南1-5-4 高円寺サンハイツB1

☎03-3316-0324

ラテン・タンゴの歌手“エストレジータ”高橋トク子さんの店

11:30～14:00 ランチタイム 自家製カレー¥650.-より

19:30～ 2:00 ライブ

10月スケジュール

7日、16日夜17日昼

ピアノ、バンドネオン、ベース、高橋トク子さんの唄

◎ 柳貞子さんの主演の辞

来る10月21日(木)東京FMホール(7時開演)に於て、柳貞子さんの1993年CD発売コンサートが開催されますが、これに関し、ご本人から当協会に次の如き感想文が寄せられましたので、その一部をご紹介します。

今回のコンサートでは、私としては珍しく中南米の歌を沢山歌います。特に、良き時代のアルゼンチンの歌曲がとてもステキです。

グアスタビーノの「バラと柳 La rosa yelsauce」「私の小さな村 Pueblito mi pueblo」ヒナステラ「忘却の木の歌 Caneional arbol del olvilo」の何とも言えないノスタルジックな愛の抒情の世界に深く心をひかれます。そして、ポピュラーソングとして良く知られている私の大好きな「アルフォンシーナと海」は、実在した女流詩人の入水の死を悲しみ、F. ルーナの素晴らしい詩とラミレスのつけたメロディが大変ステキな歌です。

ジャンルを問わず心の琴線にふれた歌を「うた」として歌うと言う私のあり方は、今回のコンサートとCDに一番良く出ていると思っています。

「歌」とは、私の一番大切な想いの表現。

皆様のハートにとどきます様に。楽しんで頂けます様に・・・。

人 事 消 息

- ・ 訪ア '93 7月 鈴木外務省情報調査局長
 8月 千野大蔵省顧問
 OECF 林理事
 9月 荒船中南米局長
 藤本元駐ア大使
- ・ 訪日 '93 6月 ガブリエル メンドーザ州知事他経済ミッション一行
 9月 グティエレス アルゼンチン水産次官
 9月12日 デ・ラ・グアルディア駐日大使 離任 (Ernesto de La GUARDIA)
 9月17日 サンチス ムニョス新大使 着任 (Jose R. Sanchis MUÑOZ)
- ・ 発令 '93 9月 おやけつねお
 小宅庸夫 駐アルゼンチン特命全権大使
 尚、山本学 前アルゼンチン特命全権大使は10月初旬帰国予定
- ・ その他 土屋義彦氏 (現埼玉県知事) が日ア協会の名誉顧問に就任

あ　と　が　き

(1) 会報は当面のところ隔月発行を原則とします。但し、ニュースの速報性その他を考慮して、臨時号の発行を考慮します。差し当たっては、12月大統領訪日を控え、11月中旬に臨時号を予定しております。

(2) 本文冒頭に言及した諸賢とは、次の諸氏を指します。

藤本芳男氏　　(元駐ア大使)

斉木茂治氏　　(在ア商工会議所会頭を務め最近帰国)

小林晋一郎氏　(同　上)

西岡　稔氏　　(新任理事)

辻　正隆氏、金井智氏(最近現地より帰任)

ここにご尊名を記し、謝意と敬意を表します。

(3) 編集人は、今回は現専務理事が任ずべしとの要請あり、不肖を顧みず暫時その務めを果たすことに相成りました。よろしくご協力下さい。('93-10-1 薄井生)

社団法人　日本アルゼンチン協会
会報第1号 1993年10月1日発行
編集兼発行人　薄井康夫